展望開けるオリエント茶会

曹青通信

発行所
曹洞宗青年会
〒105
東京都港区芝2-5-2
TEL 454-5411(代)
編集発行人　石附周行

青年宗侶の自覚を促そう
社会的価値ある活動をしよう
地域における活動の連携を深めよう
青年宗侶のエネルギーを結集しよう

新しい教化活動の試み
あふれる人並！熱気に満ちた会場

曹青会で新教化事業の開発を目指して、昨年度、二会場のオリエント茶会を企画。去る六月十九、二十日、東京グランドホテルを会場に曹青会、また、十一月十五、十六日、東京国際ホテルを会場に近畿曹洞宗青年会がそれぞれ実施。両会場とも盛況をきわめ将来性十分な教化事業として注目された。

東京会場

六月十九、二十日、東京グランドホテルを会場に開催された「オリエント茶会」。初の心をもとに、第一日目の入場者は八〇人をかぞえ、微笑庵事業の目玉ともいえる、新しい教化活動をさぐるために、理事、評議員を中心に運営された。

同つどい実行委員会（代表藤澤博委員長）では、事前の茶券の販売、細かいところまで入念な体制をとっていたが、初めての大企画に不安の色はかくせず、つどい初日の十九日、大勢の参加者が受付をすませる時点までソワソワ、当日、東京国際ホテルを会場に近畿曹洞宗青年会がそれぞれ実施。両会場とも盛況をきわめ

ペルシャ陶器でお茶会も

大半で、当時に展示会開会されていたペルシャ古美術品、茶筅、墨蹟などを興味深くながめまわった。

微笑庵、立礼席とも終日、お茶を楽しむ人たちにきわめたが、四茶席とも、道具と杉山先生の秘蔵のペルシャ陶器が使用され、手慣れた参会者は、おっかなびっくりの態。杉山先生は、ペルシャ陶器をただガラスケース越に観賞するのも一つの過ぎ方。実際に古い陶器をもてあそび、新しい美意識の開花につながれば幸い」と語った。この企画の展示のねらいはこの辺にあるようだ。

「禅と茶のこころ」と題して、講演された松原泰道師は、ベストセラー『般若心経入門』でおなじみ、易しく、やわらかく語りかけて聴衆を魅了していた。（同講演内容は、曹洞宗信仰機関誌『おだより』に連載中）

また「利休以前と利休以後」と題して、一日間にわたって講演された杉山二郎東博東洋考古室長は、東洋文化の源流である、オリエントからシルクロードを経て日本に将来された、茶碗を通して日本がいかにして自然生活の中にとけ込み、更にはそれが茶道として〝道〟にまで大成されたか、東洋文化の華である〝禅〟といかに関わりあったかを、熱っぽく講演、茶道関係者はメモをとるのも忘れ聞きいっていた。

京都会場

駁大茶に語りかけたこの企画は、新しい教化活動として全所の注目をひびいているが、教化の一タ一として定着するには、まだ乗だ解決せねばならない問題があり、そう、この企画成功の鍵には、日本茶道学会の絶大なる協力があったことも忘れてはなるまい。

東京会場の盛況さを目の前にした、京都会場の関係者たちは、地元茶道界の曹青代表者たちは、地元茶道界の曹青代表者たちは、地元規模へのオリエント茶会の企画実施を検討しているようだが、モ元規模への茶道界の曹洞宗青年会（大山義明会長）が名乗りをあげ実施にふみきった。

十一月十五、十六日京都国際ホテルを会場に開催したのが〝シルクロードにむすぶ茶と講演のつどい〟だ。

東京会場との一番の違いは、裏の中、いちばやく近畿曹洞宗青年会（大山義明会長）が名乗りをあげ実施にふみきった。

十一月十五、十六日京都国際ホテルを会場に開催したのが〝シルクロードにむすぶ茶と講演のつどい〟だ。

東京会場との一番の違いは、裏千家淡交会青年部との共力開催を得たことだ。茶事一切のことは同年部が担当した。茶道の会場特色ある会にせねばならず、同実行委員会の苦心がみられる。

茶席は、東京会場と同様、文化活動の一番の悩みは、オリエント茶会の開催意義の徹底化や、実動に対する本部会場の二つの課題を示していた。

三笠宮殿下、千宗室家元、杉山二郎先生の講演も、本場のためかなり高く、態度はメモをとりつつ耳を傾けた。参加者の一人は、「これだけの講演を一度に聞けるのは、と感動の声、今後も近畿曹洞宗青年会の企画に大いに期待している。

企画としては成功したものの、当日の盛況ぶりは、東京会場を上回るようなものであったが、茶席の運営にあたっては、多大の苦心があったようだ。

▼企曹青年をとりまく情勢をこの数年間に大きく変化した。この変化に対しと全曹青年はいかに応じたか、新しい教化活動の一つとして試された東京・京都のオリエント茶会も、大きな問題を提示した。それに対してわれわれはいかなる反応を示したか、無気力、無関心、無感動の三無主義に陥ってきてはいないか、あるいは、反応すべき気元エネルギーを再度結集して、考えねばなるまい。

各種委員決まる
新体制でスタート

昨年末連絡協議会の結成にまで至って活動を展開してきた東海地区曹洞宗青年会は、今度開催月日新聞社の後援と日八代目日本音楽界の巨匠藤蔵師匠を招いて、仏教音楽における再興のミニナ会を開しました。これは来たる三月二十五日に岐阜県美濃市市民会館を会場に行なわれるもので、宗侶や音楽関係者等を対象にしている。

団体演を併催し、午前と午後を費と普内各宗務所からの補助金とりまかなわれる。

ユニークな企画

黛敏郎氏を招いて

3月25日

東海地区

TEL(0572)二八五一一五五

実行委員会委員長
宮本洪典（岐阜県）

TEL(0572)五五五二一二三

連絡協議会事務局
山内宏昭（愛知県）
知第（曹青）

〈連絡先〉

ユニークで新しい発想の試みも予定されている。経費は約五五〇万円。

一人百名の参加者（予定）の会員家族を招いて、ユニークな企画を考えている。

また中日新聞社の後援と日八代目日本音楽界の巨匠藤蔵師匠を招いて、仏教音楽における再興のミニナ会を開催しました。これは来たる三月二十五日に岐阜県美濃市市民会館を会場に行なわれるもので、宗侶や音楽関係者等を対象にしている。

団体演を併催し、午前と午後を費と普内各宗務所からの補助金とりまかなわれる。

ユニークな企画

黛敏郎氏を招いて

3月25日

東海地区

TEL(0572)二八五一一五五

実行委員会委員長
宮本洪典（岐阜県）

TEL(0572)五五五二一二三

連絡協議会事務局
山内宏昭（愛知県）
知第（曹青）

〈連絡先〉

曹青の石附周行会長は、総会当日、副会長、事務局長の新三役が当選して、新体制に入ったが、企画案が旧役員でなされていたため、三役以下の人事についてはまだ、熱っぽく講演、茶道関係者はメモをとるのも忘れ聞きいっていた。

石附会長

曹青の石附周行会長は、総会当日、副会長、事務局長の新三役が当選して、新体制に入ったが、企画案が旧役員でなされていたため、三役以下の人事については、去る九月九日、理事会を招集し、三役以下の事を決した。人選にあたって石附会長は「全国における青年会員の意志の疎通と英知繁栄を求めて広く会員の中から登用お願いしたい。これによって、地方における各青年会の活動が中央と連携を深めつつ名実ともに、全国曹洞宗青年会の歩みを着実に進められていく期待している」と語った。

曹洞宗青年会会則第十八条によって委嘱された委員は次の通り。

◇総合企画委員
山内宏昭（愛知県第一）菊地昭光（岩手県）宮入公策（長野県）山路純正（京都府）青木哲夫（東京都）京都）酒原俊弘（三重県）井川悦道（尼信団）

◇事業委員
大山義明（京都）酒原俊弘（三重）青木哲夫（東京）井川悦道（尼信団）

◇組織委員
宮川敬学（鳥取）三浦義弘（青森）駒宮宏竜（千葉）

◇研修委員
山内宏昭（愛知）天野宏雄（宮城）菊地宏光（岩手）佐野令棒（愛知）

◇広報委員
宮入公策（長野）長井福雄（佐賀）山路純正（京都）佐々木崇瑛（岩手）

◇事務局
会計事務委員（宮城）石川徹界（木手）庶務事務委員（三重）絲岸秀哉（群馬）服部元良（東京）鈴木教雲（木手）

破草鞋

▼本紙の発刊がまだまだ遅れた、弁解せず、関係、関係、広報委員会メンバーを故の、寒顧庶民に遺産の警告、本紙を、宗門のマスコミに、と厚同ではなく立派が思いたらず、果てない願いかもしれねと育てぬさに、育てさせぬ大きな力べを感じたりもする。こんな時、宗門唯一の論客と称せられた浅川謹千峰師の「禅意に現ろ」が総持寺出版部から上梓された。昭和二十年春から三十四年頃の遺稿を中心にまとめられたものだが多方面にわたる師の論述のそれこちから、明日の宗門をどうするかという問題が感じられる。ふた昔も前の論述が現在もかび臭くなく読む人の心をうつのは宗門をどうまく情勢が何ごと進展をみせていない証左かもしれない。川窪師の論述がマスコミの真の役割として、宗門をリードする力べ、ご理由にあるのか、深く考えさせられた。

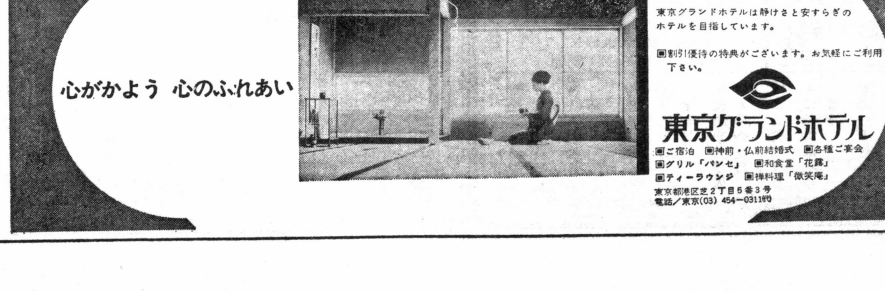
青年の特権である自由と行動力をもってこれに挑戦したい。

▼曹青をとりまく情勢をこの数年間に大きく変化した。この変化に対しと全曹青はいかに応じたか、新しい教化活動の一つとして試された東京・京都のオリエント茶会も、大きな問題を提示した。それに対してわれわれはいかなる反応を示したか、無気力、無関心、無感動の三無主義に陥ってきてはいないか、あるいは、反応すべき気元エネルギーを再度結集して、考えねばなるまい。

▼本紙の発刊がまだまだ遅れた、弁解せず、関係、関係、広報委員会メンバーを故の、寒顧庶民に遺産の警告、本紙を、宗門のマスコミに、と厚同ではなく立派が思いたらず、果てない願いかもしれねと育てぬさに、育てさせぬ大きな力べを感じたりもする。こんな時、宗門唯一の論客と称せられた浅川謹千峰師の「禅意に現ろ」が総持寺出版部から上梓された。昭和二十年春から三十四年頃の遺稿を中心にまとめられたものだが多方面にわたる師の論述のそれこちから、明日の宗門をどうするかという問題が感じられる。ふた昔も前の論述が現在もかび臭くなく読む人の心をうつのは宗門をどうまく情勢が何ごと進展をみせていない証左かもしれない。川窪師の論述がマスコミの真の役割として、宗門をリードする力べ、ご理由にあるのか、深く考えさせられた。

青年の特権である自由と行動力をもってこれに挑戦したい。

始めてみませんか
伝道掲示板
曹洞宗青年会
好評1000台突破!!
1台39,500円（電灯付42,500円）
申込先＝全曹青評議員まで
代金支払方法＝郵便振替
光化成内伝道板事務局
口座番号名古屋 10222
全曹青伝道掲示板設置推進委員会



地方集会ますます盛かん

琵琶法師の熱演も
九州地方集会

さる2月二十五、六日別府市大分県青年会館に於て、第十回九州曹洞宗青年大会が百名近い会員を集めて開催された。

琵琶に聞き入る会員（九州地方集会）

「第十回大会」が示すように、既に九州では十年前に九州一円の曹洞宗青年会が組織され、毎年一回宗宝持ち回りで大会が開催されてきた。

同会は、各教育委員会の教活動の情報交換と、旧来の狭い枠内での活動に留まらず、広い視野に立った時代展望と適応、会員相互の研鑽を主旨として発足されたものである。

全国でも最も低位曹青（最青）の組織されない地方とも称る中で十年前に既に各県曹青の枠を越えて広域の曹青会が組織され活動されていたことは、九州青年宗侶の大教授化に対する時代認識の確かさと、教化者としての熱意、自覚の高さを物語るものと評される。

殊に今大会は、全曹青の「大衆教化の接点を求めて」という巡回教授セミナーの一環として行われ、講師に総教研究の第一人者、関口和夫先生、全曹青の常任講師杉山一郎先生、それと今日分県単で活躍中の豊後の習禅法師の流れを汲む二回潤覚氏を迎えて行なわれた。

大会一日目は、恒例通りの実演で琵琶法師の豊後の習禅法師の流れを汲む二回潤覚氏を迎えて行なわれた。

二日目、杉山先生は、その講演の中で「現代宗教の問題点」と題して今日宗教々化の中で、経文が学問体系化され高度に教義化されることによって欠落してしまった情感教義の意義を再評価すべき事を強調された。信仰は学問や理論では調べ、特に宗教々化の大きな一翼を負う感覚は、大衆のフィーリングに直接訴えかける情念が大切であり、今日寺院に於ける法話に聴衆が減少してきているのは、論理が経文学問に走ったことに起因する点が大きいと語られた。

二日目、関口先生は、その講演で「宗尊の教化の一端を示しつつ、当時の民衆の求めに応じた、ある年所を捉えられた方便として用いられたであろうと思われて、その布教の柔軟さを説かれた。又日本に仏教受容以後、その変遷の中で、所引用しながら語られて、その布教の理念が、教化者としての時代認識の確かさと、教化者としての熱意、自覚の高さを物語るものと評される。

殊に今大会は、全曹青の「大衆教化の接点を求めて」という巡回教授セミナーの一環として行なわれ、講師に総教研究の第一人者、関口和夫先生、全曹青の常任講師杉山一郎先生、それと今日分県単で活躍中の豊後の習禅法師の流れを汲む二回潤覚氏を迎えて行なわれた。

同講師に、共にわが宗の只管打坐、鈴木禅師の高度の教義をそのエッセルギーが寄せられて来たことを情熱的に説かれた。

同講師とも、恒例の通り、実演の他、掲示伝道に有効な資料を紹介する。

(5) 利用者相互の利用法の紹介、不定期単発伝道的な有効な資料を紹介、不定期単発伝道的な有効な資料を紹介、不定期単発伝道的な有効な資料を

大衆教化の接点を求めて
オリエント茶会の意味と展望（一）

有馬実成

去る十二月十五日の四日間、京都国際ホテルにおいて開催された「シルクロードにひびく茶会」講演の中で、講師に三笠宮崇仁殿下、そして茶道裏千家宗元千家表千家の家元の方々、無事に盛会裡に閉幕することができた。

これは一重に、曹青の各任講師である杉山一郎先生の初日後に行われた感謝の御指導の賜物であり、また、各講師の方々の御丸を申し上げたい。そして同時に、今回の催しを主催した近畿曹洞青年会の諸兄方、今春以来、粒々年間にわたって私事を放擲して、献身的に尽されたお蔭で、この催しが成功したのであり、この点についても感謝の敬意を表さねばならない。特に、今後の曹青の活動のあり方について、今回の近畿曹青の事を始めとして、今年度の大寺の復興計画、平清盛の非常に興味を引きつけ、それに対して後白河法皇と平家の対峙、そして、それぞれの時代の南都の僧兵集団が、後白河、源氏方につく、これは歴史の問題、以外、南都はかなりとも、平安朝から鎌倉の過渡期くらいに小さい時分の事は出てまいりますが、この人は鎌倉、いわゆる例で弘法大師空海なんていう方は大変古い時代の人物で、紀元前、世紀の代ペルシアの皮袋状土器に花をいけ、ペルシアの皮袋状土器に見立て、ゴルガン田土の青彩の碗に茶筅を乗じてみたらこれは大胆で危険な感じがしたが、我々の曹青は何を意図し、何を表現したらよいのであろうか、六月の曹洞宗の催し、そして今回の京都で、一回にわたる茶会を大成功裡に終えたあと、もう一度静かに考え直してみたい。催しが事業として成功したことをさることながら、この催しが、曹青の運営に専念されたのであり、この点についても感謝の敬意を表さねばならない。特に、今後の曹青の活動のあり方に、何回様に定着していくかつて、今年の活動の中で、平清盛が非常に興味を引きつけ、それに対して後白河法皇と平家の対峙、そして、それぞれの時代の南都の僧兵集団が、後白河、源氏方につく、これは歴史の問題、以外、南都はかなりとも、平安朝から鎌倉の過渡期くらいに小さい時分の事は出てまいりますが、この人は仕方ないとすれば、大変古い時代の人物で、紀元前、世紀の代ペルシアの皮袋状土器に花をいけ、ペルシアの皮袋状土器に見立て、ゴルガン田土の青彩の碗に茶筅を乗じてみたらこれは大胆で危険な感じがしたが、我々の曹青は何を意図し、何を表現したらよいのであろうか、六月の曹洞宗の催し、そして今回の京都で、一回にわたる茶会を大成功裡に終えたあと、もう一度静かに考え直してみたい。催しが事業として成功したことをさることながら、この催しが、曹青の運営に専念されたのであり、この点についても感謝の敬意を表さねばならない。特に、今後の曹青の活動のあり方に、何回様に定着していくかつて、今年の活動の中で、

（承知のとおり曹洞宗青年会は昭和四五年三月、『大衆教化の接点をもとめて』をタイトル、テーマとして、各種の事業や研修活動を推進して来た。特に、昭和五十二年度からは「お寺をコミュニティルを加えて、寺院のコミュニティ活動の中に大衆教化の意識を求めようとして模索を続けている。しかし寺院の場で真剣に教化活動に取り組もうとしているなら誰でも痛いほど思い知らされるように、このことは至難の業であり、日暮れて道遠しの感がする。

目下『宗報』に連載中の「禅信仰」をまとめて、「禅信徒にとって禅とは、何であるか、我々の曹青は、何を表現したらよいのであろうか、六月の曹洞宗の催し、そして今回の京都で、一回にわたる茶会を大成功裡に終えたあと、もう一度静かに考え直してみたい。催しが事業として成功したことをさることながら、この催しが、曹青の運営に専念されたのであり、この点についても感謝の敬意を表さねばならない。特に、今後の曹青の活動のあり方に、何回様に定着していくかつて、今年の活動の中で、

南都の庶民信仰
―― その4 ――

大体若い時分のことはわかりませんが、どうも非常に小さい時分の事は出てまいりますが、この人は仕方ないとすれば、大変古い時代の人物で、紀元前、世紀の代ペルシアの皮袋状土器に花をいけ、ペルシアの皮袋状土器に見立て、ゴルガン田土の青彩の碗に茶筅を乗じてみたらこれは大胆で危険な感じがしたが、我々の曹青は何を意図し、何を表現したらよいのであろうか、六月の曹洞宗の催し、そして今回の京都で、一回にわたる茶会を大成功裡に終えたあと、もう一度静かに考え直してみたい。催しが事業として成功したことをさることながら、この催しが、曹青の運営に専念されたのであり、この点についても感謝の敬意を表さねばならない。特に、今後の曹青の活動のあり方に、何回様に定着していくかつて、今年の活動の中で、

（承知のとおり曹洞宗青年会は昭和四五年三月、『大衆教化の接点をもとめて』をタイトル、テーマとして、各種の事業や研修活動を推進して来た。特に、昭和五十二年度からは「お寺をコミュニティルを加えて、寺院のコミュニティ活動の中に大衆教化の意識を求めようとして模索を続けている。しかし寺院の場で真剣に教化活動に取り組もうとしているなら誰でも痛いほど思い知らされるように、このことは至難の業であり、日暮れて道遠しの感がする。

目下『宗報』に連載中の「禅信仰」をまとめて、「禅信徒にとって禅とは、何であるか、我々の曹青は、何を表現したらよいのであろうか、六月の曹洞宗の催し、そして今回の京都で、一回にわたる茶会を大成功裡に終えたあと、もう一度静かに考え直してみたい。催しが事業として成功したことをさることながら、この催しが、曹青の運営に専念されたのであり、この点についても感謝の敬意を表さねばならない。特に、今後の曹青の活動のあり方に、何回様に定着していくかつて、今年の活動の中で、

東大寺焼失と重源の出現

東京国立博物館東洋考古室長　杉山二郎

先生の通り、お寺は、古代は総合的に教育の役割を果たしていました。これは、東大寺である、と申しました。これは、一つのキャンパスであった。宏田勝彦が当時の五重の塔あった。南都の僧兵集団が、後白河、源氏方につく、これは歴史の問題、以外、南都はかなりとも、平安朝から鎌倉の過渡期くらいに小さい時分の事は出てまいりますが、この人は仕方ないとすれば、大変古い時代の人物で、紀元前、世紀の代ペルシアの皮袋状土器に花をいけ、ペルシアの皮袋状土器に見立て、ゴルガン田土の青彩の碗に茶筅を乗じてみたらこれは大胆で危険な感じがしたが、我々の曹青は何を意図し、何を表現したらよいのであろうか、六月の曹洞宗の催し、そして今回の京都で、一回にわたる茶会を大成功裡に終えたあと、もう一度静かに考え直してみたい。催しが事業として成功したことをさることながら、この催しが、曹青の運営に専念されたのであり、この点についても感謝の敬意を表さねばならない。特に、今後の曹青の活動のあり方に、何回様に定着していくかつて、今年の活動の中で、

東大寺復興と重源の出現

（承知のとおり曹洞宗青年会は昭和四五年三月、『大衆教化の接点をもとめて』をタイトル、テーマとして、各種の事業や研修活動を推進して来た。特に、昭和五十二年度からは「お寺をコミュニティルを加えて、寺院のコミュニティ活動の中に大衆教化の意識を求めようとして模索を続けている。しかし寺院の場で真剣に教化活動に取り組もうとしているなら誰でも痛いほど思い知らされるように、このことは至難の業であり、日暮れて道遠しの感がする。

目下『宗報』に連載中の「禅信仰」をまとめて、「禅信徒にとって禅とは、何であるか、我々の曹青は、何を表現したらよいのであろうか、六月の曹洞宗の催し、そして今回の京都で、一回にわたる茶会を大成功裡に終えたあと、もう一度静かに考え直してみたい。催しが事業として成功したことをさることながら、この催しが、曹青の運営に専念されたのであり、この点についても感謝の敬意を表さねばならない。特に、今後の曹青の活動のあり方に、何回様に定着していくかつて、今年の活動の中で、

（承知のとおり曹洞宗青年会は昭和四五年三月、『大衆教化の接点をもとめて』をタイトル、テーマとして、各種の事業や研修活動を推進して来た。特に、昭和五十二年度からは「お寺をコミュニティルを加えて、寺院のコミュニティ活動の中に大衆教化の意識を求めようとして模索を続けている。しかし寺院の場で真剣に教化活動に取り組もうとしているなら誰でも痛いほど思い知らされるように、このことは至難の業であり、日暮れて道遠しの感がする。

目下『宗報』に連載中の「禅信仰」をまとめて、「禅信徒にとって禅とは、何であるか、我々の曹青は、何を表現したらよいのであろうか、六月の曹洞宗の催し、そして今回の京都で、一回にわたる茶会を大成功裡に終えたあと、もう一度静かに考え直してみたい。催しが事業として成功したことをさることながら、この催しが、曹青の運営に専念されたのであり、この点についても感謝の敬意を表さねばならない。特に、今後の曹青の活動のあり方に、何回様に定着していくかつて、今年の活動の中で、

実践に適した好著

布教の理論とアイディア集
仏教伝道協会　実践布教友の会　編

一人でも多くの世界の人びとに仏法の教えを伝えるべく活動を続けている日蓮宗の仏教伝道協会の研究グループ、実践布教友の会の研究グループが、『布教の理論とアイディア集』にまとめて、本書が刊行されたことは宗教界にとってまことに時宜を得たものである。

布教教化に関する研究書が少ないことは宗教界にとってまことに時宜を得たものである。

この方面の研究が進まない理由は、現場が多方面を問題にせねばならぬという、複雑な要素があるからである。

布教教化の実際と教化論――伝――千円

本書は四編に分けられ、（一）――三――一四　仏教伝道協会、

（二）――三――一四　仏教伝道協会、

（三）――三――一四　仏教伝道協会、

（四）――三――一四　仏教伝道協会、

（五）――三――一四　仏教伝道協会、

（六）――三――一四　仏教伝道協会、

（七）――三――一四　仏教伝道協会、

（八）――三――一四　仏教伝道協会、

（九）――三――一四　仏教伝道協会、

（十）――三――一四　仏教伝道協会、

（十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（二十）――三――一四　仏教伝道協会、

（二十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（二十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（二十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（二十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（二十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（二十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（二十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（二十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（二十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（三十）――三――一四　仏教伝道協会、

（三十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（三十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（三十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（三十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（三十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（三十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（三十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（三十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（三十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（四十）――三――一四　仏教伝道協会、

（四十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（四十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（四十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（四十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（四十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（四十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（四十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（四十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（四十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（五十）――三――一四　仏教伝道協会、

（五十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（五十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（五十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（五十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（五十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（五十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（五十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（五十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（五十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（六十）――三――一四　仏教伝道協会、

（六十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（六十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（六十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（六十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（六十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（六十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（六十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（六十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（六十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（七十）――三――一四　仏教伝道協会、

（七十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（七十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（七十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（七十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（七十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（七十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（七十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（七十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（七十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（八十）――三――一四　仏教伝道協会、

（八十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（八十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（八十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（八十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（八十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（八十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（八十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（八十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（八十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（九十）――三――一四　仏教伝道協会、

（九十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（九十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（九十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（九十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（九十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（九十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（九十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（九十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（九十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（百）――三――一四　仏教伝道協会、

（百一）――三――一四　仏教伝道協会、

（百二）――三――一四　仏教伝道協会、

（百三）――三――一四　仏教伝道協会、

（百四）――三――一四　仏教伝道協会、

（百五）――三――一四　仏教伝道協会、

（百六）――三――一四　仏教伝道協会、

（百七）――三――一四　仏教伝道協会、

（百八）――三――一四　仏教伝道協会、

（百九）――三――一四　仏教伝道協会、

（百十）――三――一四　仏教伝道協会、

（百十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（百十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（百十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（百十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（百十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（百十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（百十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（百十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（百十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（百二十）――三――一四　仏教伝道協会、

（百二十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（百二十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（百二十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（百二十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（百二十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（百二十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（百二十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（百二十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（百二十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（百三十）――三――一四　仏教伝道協会、

（百三十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（百三十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（百三十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（百三十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（百三十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（百三十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（百三十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（百三十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（百三十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（百四十）――三――一四　仏教伝道協会、

（百四十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（百四十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（百四十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（百四十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（百四十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（百四十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（百四十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（百四十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（百四十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（百五十）――三――一四　仏教伝道協会、

（百五十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（百五十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（百五十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（百五十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（百五十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（百五十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（百五十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（百五十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（百五十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（百六十）――三――一四　仏教伝道協会、

（百六十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（百六十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（百六十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（百六十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（百六十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（百六十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（百六十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（百六十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（百六十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（百七十）――三――一四　仏教伝道協会、

（百七十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（百七十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（百七十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（百七十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（百七十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（百七十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（百七十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（百七十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（百七十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（百八十）――三――一四　仏教伝道協会、

（百八十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（百八十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（百八十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（百八十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（百八十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（百八十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（百八十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（百八十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（百八十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（百九十）――三――一四　仏教伝道協会、

（百九十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（百九十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（百九十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（百九十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（百九十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（百九十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（百九十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（百九十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（百九十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百一）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百二）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百三）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百四）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百五）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百六）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百七）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百八）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百九）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百十）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百二十）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百二十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百二十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百二十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百二十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百二十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百二十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百二十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百二十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百二十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百三十）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百三十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百三十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百三十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百三十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百三十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百三十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百三十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百三十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百三十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百四十）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百四十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百四十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百四十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百四十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百四十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百四十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百四十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百四十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百四十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百五十）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百五十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百五十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百五十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百五十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百五十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百五十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百五十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百五十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百五十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百六十）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百六十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百六十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百六十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百六十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百六十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百六十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百六十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百六十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百六十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百七十）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百七十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百七十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百七十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百七十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百七十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百七十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百七十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百七十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百七十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百八十）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百八十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百八十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百八十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百八十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百八十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百八十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百八十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百八十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百八十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百九十）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百九十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百九十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百九十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百九十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百九十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百九十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百九十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百九十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（二百九十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百一）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百二）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百三）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百四）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百五）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百六）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百七）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百八）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百九）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百十）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百二十）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百二十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百二十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百二十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百二十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百二十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百二十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百二十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百二十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百二十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百三十）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百三十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百三十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百三十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百三十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百三十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百三十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百三十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百三十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百三十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百四十）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百四十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百四十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百四十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百四十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百四十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百四十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百四十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百四十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百四十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百五十）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百五十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百五十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百五十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百五十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百五十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百五十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百五十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百五十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百五十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百六十）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百六十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百六十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百六十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百六十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百六十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百六十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百六十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百六十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百六十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百七十）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百七十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百七十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百七十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百七十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百七十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百七十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百七十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百七十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百七十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百八十）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百八十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百八十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百八十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百八十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百八十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百八十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百八十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百八十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百八十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百九十）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百九十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百九十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百九十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百九十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百九十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百九十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百九十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百九十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（三百九十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百一）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百二）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百三）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百四）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百五）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百六）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百七）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百八）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百九）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百十）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百二十）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百二十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百二十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百二十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百二十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百二十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百二十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百二十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百二十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百二十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百三十）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百三十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百三十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百三十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百三十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百三十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百三十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百三十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百三十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百三十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百四十）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百四十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百四十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百四十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百四十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百四十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百四十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百四十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百四十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百四十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百五十）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百五十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百五十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百五十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百五十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百五十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百五十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百五十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百五十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百五十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百六十）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百六十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百六十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百六十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百六十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百六十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百六十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百六十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百六十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百六十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百七十）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百七十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百七十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百七十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百七十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百七十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百七十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百七十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百七十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百七十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百八十）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百八十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百八十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百八十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百八十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百八十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百八十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百八十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百八十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百八十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百九十）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百九十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百九十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百九十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百九十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百九十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百九十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百九十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百九十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（四百九十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百一）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百二）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百三）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百四）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百五）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百六）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百七）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百八）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百九）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百十）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百二十）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百二十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百二十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百二十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百二十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百二十五）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百二十六）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百二十七）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百二十八）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百二十九）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百三十）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百三十一）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百三十二）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百三十三）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百三十四）――三――一四　仏教伝道協会、

（五百三十五

各宗青年会の動向

浄土宗青年会の特色

曹洞宗教化研修所講師　中野東禪

全青連の将来を考える時、広く眼を広げ、他教団の青年会を知ることが必要になる。残念ながら全青連としては、そこまでは行っていない。そこで東京教区教友会のメンバーでもある中野東禪師に依頼して、最新の資料で各宗青年会の特色、動向を紹介いただいた。

曹洞宗青年会が結成されてすでに一年になる。しかし、そこに到るには長年月のながき苦難活動があったのである。そうした自己の力量を照らして方面の見通しを活動のより集まりが開明にしていくために、各宗の青年会の活動や動向を知ることは必要だろう。

曹洞宗青年会の特色を挙げ、今後の方向を、まとめていくことになる。

編集部より、このテーマで調査をするように命ぜられたのは日ほど前である。知人の活動各宗青年層にアンケート依頼して、早く知るべく協力を得て、早く知るべく、もっとも、どの教団も、それぞれ特徴のある構造を歩っていて、部外者には簡単に理解しにくいものがあるようである。

しかし、たとえ外部から見ても知ることは同様かの刺激になるであろうから、誤謬を覚悟してあえ

全国浄土宗青年会

(1) 組織　僧中心である。

(2) 教団内での位置づけ　浄土宗大浄土宗開宗の日三蓮宗。

(3) 教団からの助成金　五十万円。

(4) 出版物　「青年浄土」A5判、ページ。

(5) 教化運動の関連及び事業について　「相浄土」「相浄土」社会運動、「青年浄土」A5判、ページ。

(6) 教団内での活動　「青年浄土」社会運動、「相浄土」社会運動、「相浄土」社会運動、「相